

『講義 日本物語文学小史』正誤表

七頁・五行目
一三頁・七行目
二〇頁・五行目
三五頁・一七行目
四〇頁・一五行目
五〇頁・二二行目
六一頁・六行目
六六頁・六行目
八五頁・一行目
一一二頁・一行目
一二二頁・三行目
一三一頁・一行目
一三七頁・一九行目
一四四頁・一六行目
一六三頁・七行目
一七〇頁・五行目
一八一頁・一七行目
一八八頁・二行目
一九一頁・一九行目
一九四頁・九行目
一九四頁・一〇行目
二〇二頁・一四行目
二〇五頁・一三行目
二〇六頁・四行目
二〇九頁・一三行目
二二八頁・一〇行目
二二九頁・二行目
二六五頁・七行目
二六九頁・八行目
二九一頁・一八行目
二九八頁・五行目
三三三頁・一四行目
三四四頁・一行目
三五四頁・一九行目

(誤)

類似をいうだけでのもの
と思ひますが、
根着くものと
研究しているのか言うと
神聖なる text として遊戯化された
「私は誰か」となどという問い
天高原と神統譜
少しづつ祭日が異なりますが
父と子との系譜
ホウセンカの種の種を
発言していいいます。
友人の薫に
院政期の成立した
〔伝承であること〕という
なかつたでしょう。
単純に詠んでしまうことが
今まで関係にあつた
地上に紫上との冷泉帝の二人
紫上の出家
紫君を引き継ぐ
浮舟と薫との関係は、
往時からの御交宜に萬感
対照性 contrast
経験の中の一齣
匂宮／中君
薫を禊祓の対象と
そのとき激的に変化
結びつくところに
(a) (b) が長歌の枠組みです。
(c) が浦嶋伝説(を含む)
その人が親かを確認するところに
一条大路を西へ向つたはず
光源氏物語から宇治中帖に至る、
もありまし。

(正)

類似をいうだけのもの
と思ひますが、
根付くものと
研究しているのかと言つと
神聖なる text と遊戯化された
「私は誰か」などという問い
高天原と神統譜
少しづつ祭日が異なりますが
父と子との系譜
ホウセンカの種を
発言していいいます。
友人の夕霧に
院政期に成立した
〔伝承であること〕という
なかつたでしょう。
単純に詠んでしまうことが
今まで関係のあつた
地上に紫上と冷泉帝の二人
紫上の他界
紫上を引き継ぐ
浮舟と薫との関係は、
往時からの御厚誼に萬感
対照性 contrast
経験の中の一齣
匂宮／中君
浮舟を禊祓の対象と
そのとき劇的に変化
結びつくところに
(a) (c) が長歌の枠組みです。
(b) が浦嶋伝説(を含む)
その人が否かを確認するところに
一条大路を東へ向つたはず
光源氏物語から宇治十帖に至る、
もありました。
物語や説話を構成する